（インタビューは11月11日に実施）

経済懇談会

経済懇談会メンバー29名

世話人 三浦 浩

日本アイ・ビー・エム 専務執行役員

1952年岐阜県生まれ。76年国際基督教大学教養学部理学科卒業後、日本アイ・ビー・エム入社。2001年理事・豊田事業部長、2003年執行役員-豊田事業部長、2004年執行役員-ソフトウェア事業担当、2006年常務執行役員-ソフトウェア事業担当、2007年専務執行役員に就任。
2006年9月経済同友会入会、2008～09年度経済懇談会世話人。

世話人 鍋島 英幸

三菱商事 常務執行役員

1950年佐賀県生まれ。72年早稲田大学商学部卒業後、三菱商事入社。2004年執行役員、2007年常務執行役員機械グループCO-CEOに就任。
2006年9月経済同友会入会、2008年度より幹事。2008～09年度市場を中心とする経済社会のあり方検討委員会副委員長、2009年度経済懇談会世話人。

大変革期を勝ち抜く企業経営を模索 本音の議論を現場に活かす

最前線に立つ経営陣が率直に意見をぶつけ合う

三浦：経済懇談会では、設立以来、「イノベーション」「変革」を主要なテーマとし、多様な経営課題について自由闊達に議論しています。一定のテーマを継続して追究することで、表面的ではない深化した議論ができ、ここに、この会の良さがあります。

鍋島：メンバーは、現場の第一線で指揮を執る副社長から執行役員まで、業種で見ると10数種に上り、容易に集めることのできない充実した構成となっています。外部講師を招く場合と、メンバーが自身の考えや現場の悩みなどを話して意見交換を行う場合の二通りで、会合を開催しています。通り一遍の議論ではなく、率直に本音をぶつけ合う場となっており、それぞれの業界や現場の状況、個人の考え方が鮮明に伝わってくるので、非常に良い刺激を受けています。

三浦：今年度のテーマは「大変革期を勝ち抜く経営戦略と企業革新」で、これは、経済のみならず、政治や文化、社会を含めて潮目の変わる時期に来ており、特に今年は大きな転換期であると、多くのメンバーが認識していることから設定しました。

鍋島：現在の経営環境は、従来のグローバル経済の進展に伴う高度成長から、180度変わっています。環境・エネルギー問題をはじめ、「資源は有限」という事実が、実感を伴って感じられるようになり、企業活動を大きく転換する必要が出てきました。これからの時代をどうとらえるかを、みんなで考え、議論し、それをいかに経営に活かしていくかが今年の課題だと考えています。

異なる立場からの意見で自論を磨く場に

三浦：メンバーは、それぞれの分野のサブジェクト・マター・エキスパート（専門家）です。多種多様な意見を聞くことで、世の中全体の大きな潮流が理解でき、さらに自分の意見をブラッシュ・アップすることもできます。未知の問題には誰しも確固たる自論を持ち得ませんが、例えば、「私はこう思うんだが」という投げかけに対して、「こういう見方もあるんじゃないか」といった返事がもらえる。多角的な見方を磨くことができます。

鍋島：世話人としては、メンバーが会合に出席したいと思える課題の設定や、講師の選定を心掛けています。外部講師も、幸い各分野のトップの方にお越しいただいています。専門家といえども、何百人もの聴衆の面前で本音を語ることには限界があるでしょうが、少人数の会合では、かなり踏み込んだ意見や提言を語ってもらうことができ、大きな刺激になっています。

三浦：政策委員会がテーマに基づき提言をまとめて発表する役割を担うとすれば、経済懇談会は自由な議論を醸成する場です。こうした機能を十分に果たしながら、メンバーには、懇談会で得られた知見を政策委員会に活かしていただきたいと考えています。